

2025年8月5日
国立大学法人総合研究大学院大学
学長選考・監察会議

学長の業務執行状況の確認結果

国立大学法人総合研究大学院大学学長選考要綱第12条の規定に基づき、永田敬学長の2024事業年度における業務執行状況の確認を行いましたので公表します。

1 確認の経過・方法等

①2025年度第1回学長選考・監察会議（メール審議）（2025年6月27日～7月3日）
学長の業務執行状況確認の方法、確認資料及びスケジュールについて審議・決定した。

（参考）確認資料

- （1）学長選考時に提出された選考資料
- （2）監査報告書（2024年度）
- （3）2024年度 学長の業務執行状況等の確認及び将来展望に係る書類
- （4）第4期中期計画進捗状況点検・評価（2024年度）
- （5）基盤機関の長及びコース長への意見聴取の結果

②第2回学長選考・監察会議（2025年7月7日）
学長の業務執行状況を、以下の方法により確認した。

- ・ 学長との懇談（学長からの説明及び質疑応答）
- ・ 監事から意見聴取（両監事からの説明及び質疑応答）
- ・ 以上を踏まえ、会議での意見交換

③第3回学長選考・監察会議（メール審議）（2025年7月31日～8月5日）
学長の業務執行状況の確認結果について審議・決定した。

2 確認の結果

当該期間における学長選考時の抱負等に基づく学長就任以降の取組状況や、中期計画の達成に向けた取組状況等を総合的に検討した結果、2024事業年度の永田学長の業務執行状況は、適切に執行されたと判断した。

2－1 「業務運営・財務内容等」について

順調に進んでいることを確認した。

その根拠としては、主に以下のことが挙げられる。

業務運営の状況

- ・ 1 研究科 1 専攻・20コース体制が安定的に運営されており、教育に係る運営の一体感が醸成されている。
- ・ 教育組織再編後の運営体制は順調に機能しており、各種会議体（教授会、領域会議、代議員会等）も適切に運営されている。
- ・ 管理運営に関する情報共有がオープンに行われ、建設的な審議の基盤となっている。
- ・ 大学における公的な期待・使命の大きさに鑑み、国民への説明・情報発信の強化が期待される。

財務運営の状況

- ・ 財務運営は安定しており、定常的な予算配分がなされている。
- ・ 学生支援を重視した予算配分が行われており、限られた財源の中でも学生への還元を重視する方針が貫かれている。
- ・ 監事を含めた意見交換・情報共有の強化が進められている。

2－2 「教育研究等の質の向上」について

順調に進んでいることを確認した。

その根拠としては、主に以下のことが挙げられる。

教育体制・方針の整備

- ・ 1 研究科20コース体制への改組が円滑に進められ、分野横断的な教育環境の整備が進展している。
- ・ 教育方針の明示により、学生の将来設計を支援する体制が構築されつつある。また、国内外の高度人材育成及びリカレント教育にも貢献できる科目群の質保証が期待される。
- ・ 修士号取得の柔軟化等、多様な学生の修学を支える制度改革が進められている。
- ・ 研究倫理教育の受講義務化等、教育の質向上に向けた取り組みが実施されている。
- ・ 他分野科目の取得を容易にするレベル別科目の導入等、融合型教育への改革が進められている。

学生の経済支援とキャリア形成

- ・ JSPS 特別研究員、授業料免除、RA雇用、SOKENDAI 特別研究員（SPRING、BOOST等）等、多様な支援制度を整備している。
- ・ 経済的支援により、大学院生が研究に専念できる環境が整備されている。
- ・ 企業との連携によるキャリア支援の新たな取り組みも進められている。
- ・ 途中退学・休学時の授業料返還、派遣プログラムの簡素化・増額等、

修学環境の改善が進められている。

- データサイエンス型人材育成プログラムにより、基盤機関を越えた共同研究を支援し、博士人材の理念を推進している。

2－3 「機構法人等・基盤機関関係」について

順調に進んでいることを確認した。

その根拠としては、主に以下のことが挙げられる。

- 学長・理事によるすべての基盤機関訪問等を通じて、機関長・教員・学生との対話を実施し、現場の課題を把握のうえ施策に反映している。
- 学生支援やキャリア支援等、教育活動を通じた基盤機関との協力が成果を上げている。
- 基盤機関長とは基盤機関長会議等を通じて密なコミュニケーション体制を構築しており、総研大運営に関する情報共有と協力体制が整っている。
- 機構・機関を越えたメンバーによるオープンな議論が行われており、横断的な連携が可能な体制が整備されている。
- 分野や文化の違いによる連携の難しさはあるが、試行錯誤を通じて新たな連携の可能性が模索されている。
- J-PEAKS申請を通じて人文科学系基盤機関との協力関係を強化しており、申請の採否に関わらず、本構想の実現により更なる連携や学内外の交流活性化が期待される。
- 総研大が基盤機関連携の核としての役割を果たすことで、融合的な人材育成や社会課題解決への貢献が期待される。

大胆な組織改革の発案は前学長によるが、それを現実に実施するためのすべての作業は永田学長の不断の努力の賜物である。一研究科体制移行後2年という短期間で新しい組織運営を軌道に乗せたことを大いに評価したい。

3 学長選考・監察会議委員名簿

別紙参照

(別紙)

総合研究大学院大学 学長選考・監察会議委員（2025年度）

◎=議長、○=議長職務代理

経営協議会選出委員（8名）

浅井 祥仁	大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構長
天野 玲子	株式会社ゆうちょ銀行 社外取締役
○ 磯田 文雄	花園大学 学長
◎ 川合 眞紀	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構長
喜連川 優	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構長
木部 暢子	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構長
木村 恵司	三菱地所株式会社 特別顧問
モンテ・カセム	公立大学法人国際教養大学 学長

教育研究評議会選出委員（8名）

石黒 圭	日本語言語科学コース長
榎本 渉	国際日本研究コース長
榊原 悟	核融合科学コース長
関井 隆	天文科学コース長
武田 英明	情報学コース長
新美 輝幸	基礎生物学コース長
古瀬 幹夫	生理科学コース長
山田 亨	宇宙科学コース長

（50音順、敬称略）